

令和6年度 学校評価

令和7年3月31日

府中市立国府小学校

	中期（3年間） 経営目標	短期（今年度） 経営目標 (2/3)	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					3月 評価	結果と課題の説明			改善案
確かな学力	自ら学びに向かい、これからの社会を生き抜く学力を身に付けた児童の育成	基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる	【教務】 ・「コグトレ」を朝の「ことばの時間」に継続して実施し、認知機能の育成を図る。 ・言語技術に係る資質・能力の育成をねらう朝の「ことばの時間」の指導内容及び方法を確実に実施できるようにする。 ・個の学習状況の実態に応じた学習内容の工夫により、学力の向上をねらう「One Up Time」の学習内容及び方法を確実に実施できるようにする。	★①市一斉学力調査（第2回）で目標値を達成する。 ★②単元末テスト得点で平均85点以上及び30%未満を0%にする。	3	①第2回の標準学力調査の結果 国語…6学年中4学年が目標値を上回った。 算数…6学年中5学年が目標値を上回った。 理科…4学年中2学年が目標値を上回った。 ②2学期単元末テスト 国語…6学年中3学年が目標値を上回った。 算数…6学年中1学年が目標値を上回った。 理科…4学年中2学年が目標値を上回った。 30%未満… 0% ・2学期までの結果を踏まえ、学年末に向けて復習を取り入れながら授業を進めた。	○	・基本が大事。徹底的にしてほしい。 ・30%未満がないということは、分からないという児童が少ない。よいこと。 ・①と②の差が激しい。	・「ことばの時間」及び「One Up Time」の内容を精選し、児童に確かな学力をつけていく。
		自らの学びを振り返らせ、思考力・判断力・表現力等を高めさせる	【研究】 ・対話の後や授業の終わりに振り返りを書く時間を必ず設ける。 ・単元末には、単元全体を振り返る時間を設け、有効だった学習方法を明確にし、次の学習へ繋げさせる。 ・学習したことを掲示したり、視点にそった振り返りができている児童を価値づけたりして、自己の学びを自覚できるようにする。	★①視点にそった振り返りができる児童を80%以上にする。（児童アンケート） ②「主体的で対話的で深い学び」に関するアンケートで、できていると判断できる児童を 80% 以上（児童アンケート）	3	★①視点にそった振り返りができる。 81% 授業内の対話後と終末部に振り返りの時間を設けた。全校で統一した視点や発達段階に応じた視点を示した振り返りを行わせた。 ②「主体的で対話的で深い学び」ができる。 80% 既習の学習方法や視点を想起させ、考えさせることで自分の考えをもつことができた。意見を交流する際に、自分の意見を紹介するのみになっているため、お互いの意見について交流できるようにする必要がある。	○	・町内においても視点に沿って意見交流をしており、活発な活動につながっている。意見交流を積極的にしてほしい。考える力がついていく。	・児童がお互いの意見について交流できるよう、ことは探求科の問答ゲームを活かし、質問をし合うようにする。
豊かな心	多様な関わりの中で、相手も自分も尊重し、よりよく生きようとする児童の育成	校内や家庭、地域等において、相手を思いやり、他者の役に立つこと等で、自己肯定感を高めさせる	【生徒指導】 ・そうじの終わりに反省会を行い、無言掃除とすみずみまでそうじをする意識を高める。 ・無言ですみずみまでそうじをする児童の表彰を行い、無言そうじへの意欲を高める。 ・自分から挨拶（レベル3）をする児童の表彰を行い、挨拶への意識を高める。 ・集団作りの取り組みや肯定的評価の取り組みを職員研修等で共有化し、実践を図ることで、児童の自己肯定感を高める。 ・校内の教育相談体制の充実を図る。	★①自分から挨拶できる児童を80%以上にする。（児童回答及び職員の見取り） ②「自分には良いところがある」と回答した児童を85%以上にする（児童アンケート） ③「無言ですみずみまで掃除をする」児童を90%以上にする。（児童回答及び職員の見取り）	3	①自分からあいさつができる。 児童回答 91.5% 職員見取り 81.2% 児童の自己評価としては目標の達成ができた。職員の見取りも目標値は超えることができた。 ②自分には良いところがある 80% 目標値には届かなかった。自己肯定感が低い児童が固定化している。 ③無言ですみずみまで掃除をする 児童回答 91% 職員見取り 83% 無言掃除の指導について、意識のずれが少なくなるように意識や指導の方法を話した。	○	・身内からは厳しい意見が出ているが、他の地区からはできていると思われている。 ・一人ぼっちの児童がいないか心配。人間関係を大事にしてほしい。	・自己肯定感を育てられるよう、肯定的な評価を中心に指導していく。
健やかな体	生活習慣を整え、心身両面ともにたくましい児童の育成	生活における運動習慣等を整え、自分の健康に気を付け、粘り強さ基礎体力の向上を図らせる	【健康推進】 ・授業の中で走の運動やミニゲームを取り入れ、運動が楽しいという気持ちや体力向上への意欲を高める。 ・体育委員会で、遊びや遊び方の紹介、体力向上のための取組を行い、体を動かすことへの意欲を高める。 ・夏季休業等を利用して、実技研修を行い、体育科の授業改善を図る。	①50m走の記録が向上した児童の割合80%以上にする。（1回目と2回目の記録の比較） ★②体を動かすことが「楽しい」と回答する児童を90%以上にする。（児童アンケート）	3	①50m走の記録が向上した児童 55% （1回目6月、2回目1月実施） 目標値には届かなかった。体育の授業で運動量を確保できるよう体育の授業改善を図っていく必要がある。 ★②体を動かすことが楽しい 90% 体育委員会の児童が各学級でレクを行い休憩時間に体を動かすことを推奨した。また4～6年生はタグラグビーやブラインドサッカーの講師を招き、体を動かす楽しさを味わえるような取組を行った。	○	・1月に短距離走は難しいのではないかと。持久走なら向上が見られるのではないかと。 ・生涯運動が好きだといえるよう、押しつけをしないでほしい。 ・走ることは自分を守るために必要。全力で走る力を。記録向上に努めてほしい。	・本年度数値の低かった項目を中心に授業の準備体操等で取り入れ、来年度の記録向上を目指す。

※自己評価：評価基準に則り、4段階で評価し、記入する。 評価規準：100%以上＝4、 80%～100%未満＝3、 80%未満＝2、 60%未満＝1として記入する。※学校関係者評価：9月の自己評価に対して自己評価結果が、適正である：○、適正でない：×、適正かどうか分からない：△として記入する。